



京都支部

2018年度支部活動報告



1. <2018. 04. 28 2018年度支部総会>
2. <2018. 06. 30 2018年度第1回例会>
3. <2018. 09. 29 2018年度第2回例会>
4. <2018. 11. 03 2018年度第3回例会>
5. <2019. 01. 26 新年会>
6. <2019. 02. 23 2018年度第4回例会>

1. 2018年度支部総会開催

2018年4月28日

2018年度 大学女性協会京都支部総会

日時 4月28日（土）

会場 ウィングス京都

司会 高橋侑子

出席者 13名

恵まれた天気となった4月28日、1年の総括として支部総会が執り行われました。

松田支部長挨拶

皆様、お集まり頂きありがとうございました。私はこの役を引き受けるにあたって2つのテーマを掲げております。1つは、「多面的な思考の出来る会を目指す」です。

学生時代興味を持っておりました「木の造り」で言いますと、近くで見た際は幹の凹凸や葉の丸みに目が行きます。一方離れてみると木の全体の動きや高さが判り、更には地中を想像すると木の根が張り巡らされている。このように物事を見るときは常に多面的に深く考える事を忘れずにいたいと思っております。

そして2つ目は「若い力への支援」です。奨学金事業にも表れていますが、若い力を育て助けたい。そしてその力を女性協会にもいただいて次に繋げられたらと考えております。

支部総会

総会は出席者13名 委任状17通で総会員の過半数に達し、総会は成立。松田支部長を議長とし、事業、会計報告と監査報告。事業計画及び予算案の承認が為され、その他事項も粛々と遂行。そして来年度の全国総会へ向けての報告や具体策等の議論も交わされました。

その後会場内で昼食を摂り、松田支部長のおつれあいである松田卓也氏の記念講演。最後にミニバザーを開催して閉会となりました。

記念講演「シンギュラリティと人類の未来」



松田卓也氏

1943年生まれ。宇宙物理学者・理学博士 神戸大学名誉教授

NPO法人あいんしゅたいん副理事長

シンギュラリティサロン主催(東京と大阪にて)

著書「人類を超えるAIは日本から生まれる」他多数

現在FM東京「フューチャーズ」(毎週火曜5:30~6:00)に出演中

シンギュラリティとは

シンギュラリティ(技術的特異点)とは、AI(人工知能)が知的能力で人間を追い越す時。人間1人分を追い越すプレシンギュラリティが2029年。人類を圧倒的に追い越すシンギュラリティが2045年に起こると言われている。

シンギュラリティが起こる事が出てくる問題として

- ・技術的失業・・・AIに職を奪われてしまう
- ・世界の第二の大分岐・・・先進国と発展途上国に分かれる。

がある。そして人間を超えた超人類の誕生により人類史が大きく変わると言われているが、この考えには賛否両論がある。

部分的シンギュラリティ

そもそもシンギュラリティは一斉に起きるものではなく部分的なものから始まり、やがて全体に広がる。そこで特定分野でAIが人を超越する事を「部分的シンギュラリティ」と定義している。

—現在すでに起きている部分的シンギュラリティー

1997 IBMディーブブルー・・・チェス世界チャンピオン、カスパロフに勝利

2011 IBMワトソン・・・・米クイズ番組「ジェパディ」で人間を抜いて最高金額を獲得

2012 Google・・・・・・ 独習により猫を認識するAIの開発に成功

2015 Google アルファ碁・・・2015年にプロ棋士相手にハンディ無しで勝利。2016年 イ・セドル(世界チャンピオン)に勝利。2017年人類最強 棋士と言われていた柯潔(カ・ケツ)に勝利

2017 Google アルファ碁ゼロ・アルファ碁に100勝

2017 Google アルファゼロ・・・チェス、将棋、囲碁のトップAIに勝利

人間が膨大な時間を掛けてマスターするものを数時間で成し遂げてしまうコンピューターの考える速度は1GHz（1秒に10億回）。対して人間は100Hz(1秒に100回)である。（アルファゼロは将棋2時間、チェス4時間、囲碁8時間でマスター）その圧倒的な回転の速さに勝ち目は無い。そして今後、汎用人工知能(AGI: artificial general intelligence)や人間にAIをドッキングする知能増強を目標とした開発に繋がっていく。

シンギュラリティー革命

イスラエルの歴史学者であるユヴァル・ノア・ハラリは提唱している人類史の4つの革命として、認知革命(7万年前)、農業革命(1万年前)、科学、産業革命(17～19世紀)、そして次なる革命としてシンギュラリティーを位置づけている。

2029年のプレシンギュラリティーではAIの台頭による技術的失業が相次ぎ、世界は第二の大分岐として先進国と発展途上国に分かれる。ここでの先進国と発展途上国とはシンギュラリティーに成功する国とそうでない国を意味し、先進国が圧倒的な豊かさを得て、後進国は先進国に収奪支配される。

かつて日本は目覚ましい進歩を遂げ、後進国から先進国へと這い上がった。しかし、今後起こりうる大分岐では後進国に転落してしまうのではと危ぶまれている。

そして2045年のシンギュラリティーの際には第三の大分岐、人類と超人類に分かれると言われている。超人類とは、超知能を持ったAIを人間とドッキング(脳に直接接続)することによって生まれる新しい種。現在、それに繋がる研究も為されており、コンピューターによって脳の機能や活動を監視することが出来る電極の集合体(神経レース)を針で直接脳に注入する方法(イーロン・マスク)や、赤外透過光で頭蓋骨の中を透かして中を研究する方法(Facebook)などがある。

人類の未来

今後人類はエリート(支配階級とその周辺)と不要階級という二系分裂を起こす。今まで人間そのものに価値があった。(農民、兵士、労働者等)しかし今後はロボットとAIが代わりを務める為、人間は政治的経済的に全く無価値になる。

では将来直面する若者はどうすべきか。それは今までの20年教育、40年労働、20年リタイアの概念を捨て、常に新しい知識をインプットし、変化に対応する柔軟性を養う事である。

講演が終わってからの質疑応答では多くの質問がされ、関心の高さが窺い知れました。時代の変化は自分が考えていたより遥か先を進んでいました。コンピューター開発の世界から見たら、自分の生活はホコリを被った古文書のように……。子供たちの未来の為に私達世代も古い考えは捨て去り、常に新しい知識を仕入れて導いて行かなければと身の引き締まる思いでした。

2. 2018年度第1回例会

2018年6月30日

日時：2018年6月30日（土）13:30～15:30

会場：ウィングス京都

司会：阪田敦子

出席者：15名

2018年度の第1回例会は、

- 支部長挨拶、
 - 勝目康氏講演
 - 新会員紹介
 - 2018年度全国総会（静岡）報告
- と進められました。

今回の講師は勝目会員のご子息であり京都府総務部長である勝目康氏。自治省入省から21年のご経験等を、～『官僚』という仕事～と銘打ってお話して頂きました。

松田栄子支部長挨拶



勝目会員のご子息が、ご尊父のご逝去後のお取り込み中にもかかわらず、今日駆けつけてくださいました。勝目会員によりますと、ご子息が小学生のころお二人でパリ祭に行かれたそうです。クライマックスの花火でも眠っているのんびりしたお子様だったそうですが、マルセイユへ行かなければならないとき反対行きのプラットホームにいることに気づき、見事！まだよくアルファベットもわからないのに鉄道ファンとしての底力を見せ、お母様を目的地まで無事導いたとお聞きしました。

その思い出もあったせいかフランス語を短期間でマスターされ、一等書記官としてのフランス滞在時はサルコジ大統領の言説の訳もなされるほどだったそうです。直近では、安倍首相を支える秘書官としてご活躍なさいました。

明治以来身近なことでも、また、国を動かすことでも大きな力を持ってきた官僚についてお話しいただきたいと思います

講演 ～『官僚』という仕事～



講師 勝目康氏

東京大学法学部卒業。平成9年自治省入省

その後消防庁総務課理事官、内閣官房副長官秘書官等を

歴任し、平成30年京都府総務部長に就任。

趣味はサッカー観戦。

私は仕事を始めて21年。官僚としては中堅層である。2017年に京都府庁に赴任する前3年間は首相官邸に身を置いていた。政治と官僚の関係がクローズアップされている時でもあるので、結節点にいた経験も踏まえてお話ししたい。

自治省に入省すると、国と地方公共団体を行き来してポジションを上げて行くのが一般的であるが、私の場合それに加え若い頃国会に行き選挙制度改革に携わり、その後留学と大使館勤務で計5年の海外生活。そして官邸に3年等結局本省勤務は4年と、霞が関でも特異なキャリアパスを歩んでいる。

官僚というのはジェネラリストを養成するキャリアパスであり、中でも自分は専門性を問われると疑問符が付くが、現職の地方自治はある種の専門職なのではないかと考えている。そういう点で、その時々で環境で柔軟に対処していく20年であった。

官僚とは

官僚とは明確な定義は無い。一般のイメージとして国家公務員の総合職試験を通った人の中で・法律・経済・政治・国際といった分野のいわゆる「事務系」の総合職である。

今年の総合職（事務系）の試験合格者は728人。ここから合格者が各省を回り何度も面接を受け、最終200人以上が採用される見通しだ。

総合職の受験者数は平成8年の約4万5千人をピークに減っており、今年は遂に2万人を切った。その要因として岩盤志望層の相対化が挙げられる。外資系企業やベンチャーにより魅力を感じる等、この2、30年で志望者層の属性の変化が起きているのだ。こうした中で霞が関各省もOJT(実務を通しての教育訓練)ではなく、底上げを目的とした人材育成プログラムの必要性を感じている。そして、もう一つの要因は「森友・加計問題」によるイメージダウンとの指摘がある。

政官関係

今回「森友・加計問題」を機に政官関係が問われ直されているが、この政官関係は19世

紀の仏の小説家バルザックの作品でも問われており、国の統治が始まって以来のテーマである。

日本の政官関係のベースは平成の初頭から始まった政治行政改革の流れの中にある。その政治改革とは政権交代可能な選挙制度，2大政党制を前提とした小選挙区制の導入。それと対をなす様に与党の中での派閥で争うのではなく、政党間が競えるよう片方の政党の求心力を高めなければならないという観点での官邸、内閣機能の強化。ここまでで20年以上に及ぶ改革が行われてきた。そのひとつの形が今の状況であり、内容が好ましいか、望ましいかは人それぞれだろうが、今まで作り上げてきたシステムの結実点であることは確かであり、これ自体の否定は絶対にできない。

内閣主導、機能強化以前は「省益あって国益なし」の時代で、各省局には与党の族議員が付き、取捨選択をせず全て盛り込む足し算の政治であった。

その後、高度経済成長期が終わり、人材、財源的にも資源が限られていく中でどう分配するかという取捨選択の時代に入った時に、各省分立分散型の仕組みでいいのか。そこで取り組まれてきたのが内閣機能の強化と、内閣官房が各省を総合調整する力を強めることであり、省庁再編もその一環として位置づけられる。内閣人事局の設置もその問題意識の延長である。

内閣人事局

平成26年に設置された内閣人事局。この存在によって官僚が人事を官邸に握られて萎縮をしてしまったという意見がある。そうすると官邸、内閣機能の強化と人事は分けて考えられるかという議論になる。政治行政の世界だけでなくあらゆる組織にいえ事だが、何かを実行しようとした時そこには適材適所があり、今の日本が置かれている環境の中で官邸の機能を果たさなければならないという立場に立つのであれば、人事も表裏一体である。

内閣人事局自体は必要な仕組みだと言えるが、運用面では改善点はあり得る。各省の部長局長以上の役職約600人の人事を行っている。この人数を内閣人事局で見切れるかというところと難しい所もあり、プロモーションをしていく中であって、個人的な政治色を付けつみ出すと言う事が起これば弊害が多いという意見がある。

日本も戦前にこれを経験している。戦前の2大政党時代、双方が獵官制を懲遷するような人事をしており、その結果腐敗が進みその間隙を突いて軍部が行政に入り込んできた苦い経験がある。それを念頭に置いて内閣人事による官邸、内閣主導の人事を行う事に警鐘を鳴らす人もいる。

政治主導

内閣人事問題の顕在化は現政権と言われるが、遡ると前政権時代も政治主導人事であった。政治主導とは個人の政治家が主導するのではなく、民意を得た政党が作った内閣が組織として主導する。そこには利害調整が必要であるが、意思決定のみ政治家で行い必要な利害調整を含む全てを役人任せにしていた時期もあった。

主導と言うと日本では封建的な上下関係に捉えられがちである。そうすると官僚は政治より下と捉えられ、役割分担の在り方として違う文脈ができてしまう。政官の正当な役割分担の上での政治主導と、上下関係の様な受け止めが混在したままで今の政治主導が進んで来てしまっている。

これにどう対応するかという所で、ある意味でのひとつの処世術を示したのが加計学園問題に於いての前川前事務次官である。その中でこんな発言があった。

「公平であるべき行政が歪められた。」

それに対して加戸守行愛媛県前知事は

「歪められた行政を正した。」と発言。一見子供の喧嘩のようであるが、本質的な所も含んでいる。それは何かというと、行政の公平、安定は、既存のルールの当てはめとしては当然あるが、物事を変えようとしている時、ダイナミズムが働く時に、それを徹底的に追求していくことがどこまで可能なのか。公平、安定を優先するあまりダイナミズムを失ってしまう事があって良いのか。

加計学園の例で言うと、50年新設が無かった獣医学部。獣医師会の強いプレッシャーがあり、次のイノベーションに繋がる獣医師(産業、創薬等)は不足している中で、そこに風穴を開けるダイナミズムはあって然るべきという考えは成立する。公平中立であるべき行政というのと、政治ダイナミズムは時に緊張関係をはらむ。公平中立が損なわれる事態を直ちに避けないといけないのかは、一つ一つ見なければならぬ。しかし、政治がダイナミズムを発揮する時何をして良いのかということそうではない。

官による理論の支えのない政はむき出しの権力＝暴力

他方、政の民主的な正当性のない官は暴走である。

政の裏側が暴力的になってはいけぬし、官の裏側が暴走してもいけない。そこに政官の均衡点を見出していかなければならぬ。

終わりに

官の立場からすると、毎年総理大臣が変わるのではなく安定的な政権基盤の元落ち着いた仕事をしたい。そして公正中立を担保する為、官の努力はもちろんの事、政治側の一定の緊張感も必要だ。それをもたらすのはメディアでもなく、少数分裂した野党が日程闘争や強行採決の演出といった旧来の国会対策政治でもない。野党が現実的な選択肢となり得る政策を提示し、二者択一になる姿を作る。その緊張感の中でこそ政官の役割が規定され、環境も整備されるだろう。

日本の中枢に身を置かれていたからこそその重みのあるお話に会員一同引き込まれました。

講演の後の質疑応答では沢山の質問がされ、一つ一つ丁寧にお答え頂きました。

2018年度全国総会報告

支部長を始め、総会に参加した会員による報告が為されました。

支部長会、懇親会、総会、分科会、研修会の順に報告され、何れも静岡支部の皆様のお心のこもったものであり、次年度の京都全国総会の参考になるものでした。

副支部長挨拶

新会員を3人もお迎えして、大変嬉しい会となりました。今後もぜひ宜しくお願い致します。講演では、普段聞けない官僚の中身の話を伺い、私たちにとってはレベルの高いお話が聞けたのではないかと思います。そして全国総会の報告がありましたが、来年は私たちの番ですので、お一人お一人の力をお借りし助けて頂きたいと思います。本日はありがとうございました。

新会員紹介

今年度は3名の新しい会員を迎えました。

永田璞子さん

名倉素子さん

吉川攝さん

これからよろしく願い申し上げます♪

3. 2018年度第2回例会

2018年9月29日

日時：2018年9月29日（土）13:30～15:30

会場：ウィングス京都

司会：廣田 輝子

出席者：17名

当日は台風による影響であいにくの空模様でしたが17名の皆様にご参加いただき、賑やかな会となりました。2018年度の第2回例会は支部長の挨拶に続いて、株式会社傳來工房代表取締役社長である橋本和良氏にご講演いただきました。

松田栄子支部長挨拶

本日はお忙しい中、そして台風が近付いている影響からお足元の悪い中お越し頂き、ありがとうございます。

さて、歳を重ねてもいつも前向きでいたいと思います。そこで今年度の活動において、「大きな視点を得る」「私たちが身近に持っている財産に目を向ける」という目標を掲げました。それを踏まえて今年度は「AI（人工知能）技術の発展とこれから」、「官僚の仕事とは何か」という講演を聴き、今まで知り得なかった分野について学ぶ事が出来ました。そして今回は傳來工房社長の橋本知良様をお招きすることができ、大変ありがたく思っております。

2つ目は私たちの身近な財産という事で、家族や自分の近くの方の話を聴くことで1つ目の目標である大きな視点を得る事が出来ればと思っております。そしてこの活動を通して日々前向きに進んでいけたらと思っております。

講演 ～基礎力がすべてを変える～



講師 橋本知良氏

玉川大学工学部卒。大塚製薬を経て昭和57年傳來工房入社。

平成7年同社社長に就任後たった一人のトイレ掃除から20年かけて環境整備活動を全社に浸透させ、今では「環境整備」についての講演やメディア出演も多数。趣味は読書、ウォーキング。

今回の「基礎力がすべてを変える」というテーマの基礎力とは環境整備活動を意味する。この活動があったから今会社が存続し、そして新たな事業にもチャレンジできている

と思っている。これは企業経営に限らず、人間が生きて行く上で非常に大切な事である。

傳來工房 1200年の歴史

傳來工房は弘法大師（空海）が平安時代初期に遣唐使として唐に渡り修行。その後大陸の文化や技術と共に職人集団も連れて帰国した。その中に鑄造の青銅蠟型鑄造技術があり、それを受け継いだ職人が「職人集団傳來」を発足させる。のち、一番弟子が傳來を継承して現在に至ると言い伝えられている。

全国の神社仏閣の装飾金物品を納めていたが、戦時中は金属、武器弾薬に変えられたのでそれもできなくなった。しかしそのままでは会社の存続が出来なくなるので、機械金属分野の重要な技術である鑄造技術を活かして自動車部品や機械部品製造にシフトして存続させた。現在は群馬等に工場を設け、京都は原点に戻るべく建築美術工芸部門を立ち上げた。伝統仏教に加え近代建築の装飾金物の分野に進出し、平成11年からは一般住宅建築や住宅エクステリアの製造も手掛け、主力事業としている。

環境整備

傳來工房では環境整備として礼儀・規律・清潔・整頓・安全・衛生。この6点をお客様視点で徹底的にレベルアップする活動と定義付けた。

- 礼儀・・・挨拶は明るく元気にはっきりと。お客様には笑顔で接し感謝の気持ちを込めて相手よりも先に挨拶する。
- 規律・・・結果は期日までに必ず報告する。
- 清潔・・・不潔な場所をなくす
- 整頓・・・不用品は捨てる
- 衛生・・・不衛生な場所をなくす。特にトイレはピカピカに磨く

一つ一つは簡単な事で自分がやろうと思えばすぐに出来る事であるが、これを会社、社長方針と決めてやろうとしても出来ていない組織、社員がほとんどである。やろうと思っただけですぐに出来る事もやらないような社員や組織が外部的疎外要因のある営業活動等が出来るはずがない。まず、このような基本的な事が出来る社員を育てようとして取り組んで来た。

発端はバブルの頃、近代美術装飾品の仕事がたくさん入って来た。しかしバブル崩壊後そういった仕事は一気になくなってしまい、背に腹は代えられず大手建材メーカーの下請けを始めた。

最初は順調だったが、毎年コストダウンを強要された。そのコスト吸収のため、あらゆる

る改善活動手段を試したが結果が出ず、このままでは会社が潰れてしまうと、経営書を読んだり、セミナーに参加したりしていた。その中で環境整備活動に巡り会い直感で導入の決心をする。早速社長方針として経営計画書に書き、社員に伝えるが全く定着せず、2年が過ぎても全く成果が表れず、業績もどんどん悪くなっていった。これではいけないと、すでに導入に成功している会社の社長に教を請いに出向くと、社長から出たのは「社長がやらずして誰がやる。本当に定着させたかったら朝一番に行って自らトイレ掃除から始めなさい。」と言う厳しい言葉だった。それまでトイレ掃除などしたことが無かったが、その帰りに決心して道具をそろえて実行に移した。最初はゴム手袋をはめて、トイレブラシで嫌々掃除していた。社員もどうせ3日と続かないだろうという目で見ていた。

しかしそれから3か月。必死にやっていると、だんだんトイレ掃除は心の掃除だという気づきが生まれ、もっと磨きたいという欲がでてきた。そして半年。自分で道具を探し、工夫し、手作りして素手で磨いていた。1年。仕事に取り組む精神そのものだと確信。全社員でやれば会社が変わると思い、再導入を決意した。

そこで最初は勤務時間中に仕事としてトイレ掃除をするように方針決定し、伝えた。ところが社員たちは全くやろうとしない。特に営業担当の社員はあらゆる言い訳を並べて拒否した。しかしこれをしないと会社が変われないと確信していたので、「トイレ掃除ができない奴は仕事を辞めてくれ」と言うと数人辞めた。しかし辞めたのは日頃から否定から入る人間ばかりで却って風通しが良くなった。こうしてだんだんと環境整備が浸透してきて、個人の仕事への考え方や取り組む姿勢などの違いが判るようになってきた。環境整備に真剣に取り組む社員は成果が仕事にも反映されていたのだ。

そして3年たつと全体的に結果が出てきた。会社にやって来たお客さんの反応が変わってきたのだ。それに営業の社員が気づきはじめ、今では熱心に環境整備に取り組み、お客様を会社にお連れするのが最大の営業活動となっていった。

臨界点

環境整備により沢山の臨界点に出会った。

例えば挨拶。職人氣質の堅物な人達もどんどん変わっていき、明るく元気に挨拶する様になった。すると訪問客がこの人の作るものを使いたいと思ってくれるようになった。つまりは職人が最高の営業マンになったのだ。

環境整備をすることによって社員の人格も製品もサービスもピカピカに輝いてくる。環境整備は社員全員の営業活動であり仕事の原点である。そしてお客様に最高の営業マンと言っただけの社員は最高の商品だと思うようになってきた。

定位置、定品、定量

“決められた場所”に
“決められた物”を
“決められた量”だけ置く。

そしてそれに加え、最も生産効率の上がる場所、決められた場所以外置かない事、欠品を起こさない最小の量、それを使いやすく戻しやすく管理しやすく美しくする事を“3定”という定義付けをし、そして会社全体を3定化する事を目標とした。その3定には雛形を作らず、社員に創意工夫して自分の3定を作ってもらい、その考える力を仕事にも活かせるようにと考えている。

この活動で大切な事の一つとしてマンネリ化しないことがある。新入社員が初めて環境整備に出会い、その中で迷いが出ないように丁寧に説明。環境整備をする先には何があるのかを明確にする事でマンネリ化を防いでいる。

社会的価値の高い経営理念の元、その企業らしさを感じさせる独特のビジネスモデルを磨き上げ、その結果継続的成長を続ける会社であると同時に、社員が素晴らしい会社と誇りを持つ独特のカルチャーが形成されている企業をホームにしよう。そのために環境整備を毎日進化させなければならない。

京セラ創業者でもある稲盛和夫氏の言葉で、人生の成功の方程式は「能力×熱意×考え方」というのがある。能力、熱意があっても考え方ひとつでプラスにもマイナスにもなるという事。考え方を磨くために“基本”を「形より入って心に至る」まで徹底的に継続する事が大切だという思いに至った。

講演後の質疑応答では質問と同時に、感動し気づきを得た会員から感謝の言葉が複数出ました。応用ばかりの現代人にとって基本に立ち返るといえるのは不可欠な事だと強く感じました。

講演後は来年度の全国総会へ向けての準備の進捗について報告され、閉会となりました。

4. 2018年度第3回例会

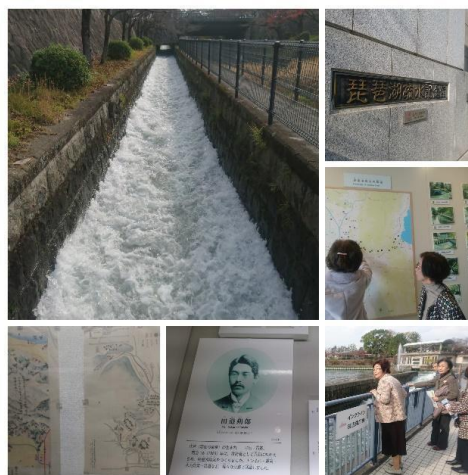
2018年11月3日

「琵琶湖疎水記念館、無鄰菴」見学会

雨の予報からの嬉しい晴天。日の光に紅葉の赤が眩しく絶好の散策日和でした。今年の野外例会は、京都の暮らしの支えとなっている琵琶湖疎水について造詣を深めるべく、琵琶湖疎水記念館を見学し、午後はその疎水から引かれた水を利用した庭園が素晴らしい無鄰菴を訪れました。地下鉄蹴上駅から下り坂を5分ほど行くと、京都市動物園の手前に記念館が見えてきます。この日は遠足で来た小学生も多く、熱心にスケッチをする間を縫っての見学となりました。

琵琶湖疎水は明治23年(1890年)に完成した現役の施設で、大津市観音寺から京都伏見までの第一疎水(全長約20km)、第一疎水の北側を平行する第二疎水(全約7.4km)、左京区蹴上から分岐し、北白川までの疎水分線(約3.3 km)、で構成されています。明治維新後、東京遷都による人口減少で衰退した京都の復興策として、第3代目 京都府知事の北垣国道が田辺朔郎らと共に計画。この成功により、水力発電や水車動力産業の発展に繋がり京都は新たな活力を得ました。

水力発電の他にも水運や市内の庭園への引水。御所、東本願寺への防火用水と様々な場面で活躍しています。



記念館ではこうした歴史をまずVTR で学び、その後多数の貴重な資料を見ながら疎水事業が如何に壮大な計画、工事であったかを実感いたしました。先人のたゆまぬ努力の上に成り立っている現代の安定した不自由のない暮らしを有難く思い、感謝いたしました。

記念館見学後は、京都国際交流会館内のレストランにて昼食をいただき、午後からは名勝「無鄰菴」へ。

無鄰菴は山形有朋の別邸として明治29年に完成。数寄屋造りの母屋と藪内流燕庵写しの茶室、煉瓦造り二階建ての洋館、小川治兵衛の作庭した庭園からなっています。小さな入口から庭園内に入りますと、色鮮やかな紅葉が無鄰菴特有の芝の緑に映える美しい景色が広がりました。東山の借景と、疎水から引いた小川で“自然主義的な新しい庭園感“を見事に表現しています。そしてその庭園に違和感なく洋館が溶け込んでいました。中に足を

踏み入れると、重厚な洋間。そこは無鄰菴会議が行われた部屋とのこと。歴史が動いた場所に立ちその緊張の局面に思いを馳せました。

庭園を散策した後はお抹茶を頂いたり、定期開催されている野鳥ミニ講座を受講したりと充実した時間となりました。



5. JAUV京都支部 2019年新年会
ホテル日航プリンセス京都

2019年1月26日

雪がちらつく寒い日となったが16名の会員が集い嬉しい幕開けとなった。

松田支部長挨拶（要約）

懐かしいお顔もみえ、嬉しい限り。今年はいよいよ全国総会。豪華なゲスト陣やアンケートの実施による意見交換、研修旅行等、会員の皆様のご協力に感謝している。当日は全会員が何らかの形で関わり、良い会になればと思う。

先日参加した新春のつどいで、奨学生の選考基準に「今後世の中の為に働いていく姿勢」も追加されたと聞き、様々な職業に就いていてもそれぞれにプロ意識を持ち、隣の人から大きくは世の中の為に働き掛けが出来、必要があれば助け合える大学女性協会を大切にしていきたいと感じた。



目まぐるしく変わっていく世の中だからこそ、皆さまと共に暖かく、かつ強固な仲間の繋がりを持っていきたい。

挨拶の後はコントラバスの独奏。木村会員と伴奏者の谷川秀美さんの演奏が披露された。

曲目

エリック・サティ：ジュ・トゥ・ヴ
宮城道雄：春の海
ジョハノン・ホッテジーニ：エレジー



解説

ジュ・トゥ・ヴ

フランスの作曲家、エリック・サティの代表曲の1つ。音楽界の異端児と称された彼は数多くの秀逸作品を世に送り出しており、ドビュッシーやラヴェルなどの大作曲家も自身への影響を公言している。

今回演奏された「ジュ・トゥ・ヴ」は1900年に当時の人気シャンソン歌手、ポーレット・ダルティの為に書かれた。曲調は華やかで親しみやすい一方、歌詞は非常に濃厚で情熱的な恋の歌である。

春の海

言わずと知れた日本を代表する箏曲であり、迎春には欠かすことの出来ない曲となっている。

宮城は7歳で視力を失ったが、これが転機となり音楽の道を志した。若くして頭角を現し、のちに邦楽、洋楽の融合による新たな音楽創造を目的とした「新日本音楽」の活動の中心を担い、日本音楽界に多くの影響を与えた。

春の海は1929年に作曲された。モチーフとして、自身が上京する際に船上から見た瀬戸内海を描いている。この曲はヴァイオリニストであるルネ・シュメーの編曲した琴とヴァイオリンの2重奏の成功と共に国内外の人々に認知される事となった。

エレジー

ジョバンニ・ボッテジーニは19世紀初頭のイタリアのコントラバス奏者。他にも作曲家、指揮者の顔を持つマルチな才能の持ち主であった。特にコントラバスに関してはその超越した技巧から「コントラバス界のパガニーニ」の異名を持つ。指揮者としてはG. ヴェルディ作曲のアイダ初演を指揮した事で知られている。

エレジーは情緒豊かなメロディーが心地よく、多数のコントラバス奏者が演奏し彼の作品の中で最も愛されている曲の1つである。

インフルエンザで叶わなかった昨年の新年会から1年。ようやく実現した珍しいコントラバスのソロと美しいピアノの旋律を楽しんだ。

その後は美味しい料理と楽しい話に花が咲き、後半は全員にマイクが回り、近況や全国総会の進捗などそれぞれ報告しあった。



最後はピアノとコントラバスの伴奏に合わせ、「花は咲く」と「花」の2曲を歌い、今年も元気に過ごしましょうと誓い合った。

6. 2018年度第4回例会

2019年2月23日

「若手女性研究者のお話を聞く」

2019年2月23日（土）13：30～15：30

ウィングス京都

出席者：17名

少し春の気配が感じられる2月末日。今回は新しい試みとして本協会の国内奨学生の京都地区応募者の皆様(残念ながら本部選考には漏れたが)に声を掛け、お返事を頂いた2名の若手研究者をお招きし、現在進行中の研究についてスライドを使って発表して頂くことになった。かつて奨学生に選ばれずでに研究者として活躍している塩尻かおり、浅井歩の両会員をコーディネーターに、発表の進行から質疑応答、その後は女性の労働環境等について話し合う場を設けた。応募原稿では把握しきれなかった内容の面白さ、研究者としての意欲を知ることが出来、活気ある例会となった。

支部長挨拶（要約）

奨学生募集は協会にとって大きな事業である。その中で（もと奨学生の）塩尻さん、浅井さん、山崎さんがこの協会を盛り上げてくださっているが、今日は今年度応募いただいた中からお二人の方にお越しいただくことができた。奨学生候補者を選び、励ます事も私達の大きな仕事だと考えている。今回は研究発表と共に悩みや希望等もお話いただいて、私たちに何が出来るかも考えていきたい。



～研究発表～

運動エクササイズの効用とその定量化

一般奨学生応募

橋爪 夏香・・・立命館大学スポーツ健康科学部卒、現大学院生

体操選手としてオリンピックを目指していた。その中で緊張した際に手の震えが止まらず、自分の最大のパフォーマンスが出来ないという悩みを抱えていた。



考えた末、スポーツ理論を知ることによって克服出来るであろうと立命館大学スポーツ健康科学部へ進学。進学後は栄養学、トレーニング科学、スポーツ医学を学び、教授と共に出席した学会にて多くの専門家から話を聞く等、様々な角度から知見を集めた。そうして

得た物を実際の試合に応用し努力を続けたが、故障によるドクターストップで選手生命は絶たれてしまった。しかし父の「科学者としてでもオリンピックには行ける」という助言を受け、現在は今まで得た知見を深め別角度からオリンピックを目指している。

大学院では体操だけでなく、多くのスポーツに応用が出来る研究を行っており、その一つが疲労ホルモンの動態調査だ。現在のスポーツ業界での疲労の評価は本人、または第三者（コーチ等）の経験や主観が大半である。これは自覚症状のない疲労の蓄積を見逃し、最悪の場合怪我や慢性的うつ病（オーバートレーニング）を引き起こす重大因子となり得る。そこで客観的な指標（心拍、脈拍、尿、血液等）が必要になってくるが、中でも注目は唾液である。

○唾液の利点

- ・非侵襲性
- ・採取が容易
- ・専門技術不要
- ・短時間でのフィードバックが可能

こういった点から非常に利便性が高い為、現場での活用が期待されている。そこで運動性疲労と唾液中のバイオマーカー（身体の状態を客観的に測定し評価するための指標）の経時変化と、その関連性の検討を行っている。そして、この検証過程で物質A（研究中の為非公表）が疲労と大きく関連している事に注目。今は血液から検出している為、唾液でも採取可能かを探っている。

今後は様々な運動パターンによる検証を行い、スポーツはもちろん、がんの早期発見、子供、社会人の体調管理、ストレスの数値化等に応用を図りたい。

関節症の因子に関する研究

下浦佳南子・・・京都大学大学院医学研究科理学療法学専攻卒
現大学院生

専門は変形性膝関節症の予防、治療。自分が0脚であるが、理学療法学を学んで行くとこのままでは自分も膝が痛くなるのではと考え、それを予防するため専門に選んだ。



所属の研究室の研究テーマは主にリハビリテーション。リハビリと言うと高齢者のイメージが強いが、万人の健康のサポートと捉えている。

変形性膝関節症とは何か。

日本における変形性膝関節症発症者数は40代以上で2530万人。（男性42%女性62%）
症状は膝の軟骨がすり減り関節が変形し、痛みを引き起こす。そして徐々に歩行が困難になり、最終的には要介護になってしまう。0~4のグレード分類があるが、レントゲンに写らない0~1程度の変形であっても痛み等の症状が出る。したがって早期介入、治療が重要と考えられる。

0脚との関連性

0脚は変形性膝関節症の発症、進行のリスク因子と言われている。しかし若年でも0脚は存在し、高齢で0脚でも膝が痛くない人もいる。この事実から0脚でも膝関節症でない人はどのような特徴を持っているのかを調べる事で、0脚から膝関節症への悪化を止められる方法にたどり着けるのではと考えた。そして0脚の関連因子とは何かを解明できれば健常な膝から0脚になるのを防ぎ、超早期での予防が可能になる。そこで修士研究として関節変形関連因子の研究を行った。

具体的には先行研究で報告されている膝と足部の関係性に着目し、0脚だが変形性膝関節症でない人の足部形態、機能の特徴があるのかを検討。

—0脚の高齢者44人の内、変形性膝関節症の発症の有無で二分化。—

- ・膝の伸展筋力の測定
- ・拇趾外反角の測定・・・有意差あり。0変形性膝関節症の人は拇趾外反角が大きい
- ・足趾把持力（足の指の握力）・・・有意差はないが少し傾向がみられる。
- ・舟状骨溝の有無（扁平足の指標）

結果・・・0脚だが変形性膝関節症でない人は拇趾外反角が小さく（外反母趾ではない）足趾把持力が強い傾向にある。

博士課程での研究課題

これまでの研究の裏付けと若年者を対象にした検討、他の身体機能についても調査を行い、どのような人が変形性膝関節症になるのかを調査したい。そして早期の予防に繋がればと考えている。

研究発表の後会員から多くの質問が飛び交い、関心の深さが窺えた。

後半は会員へのアンケート結果を基に、社会で活動する上で女性だからこそ苦労したエピソード、そしてそれをどう克服したか等に関してディスカッションを行った。



夫、両親の介護。子育て。同居。・・・

→家族で協力して乗り切った。

→全てを受け止めず、半分流して自分を保つ。

色々な我慢、結婚、育児による仕事のセーブ・・・

→地域の仲間と話し合っ私設保育所を創設。

→勤務形態を変える。

→外での用事を内に持ち込む。

結婚、出産について

・夫の海外赴任など不安もあった。

・長期に渡る海外生活を終えて帰国したら日本が大幅に変わっていた。

→両親のサポートがあったので助かった。

→計画してする人もいるが何があるかわからない。その時になれば何とかなる。

セクハラ、パワハラ

・女性は結婚＝退職が当たり前。

・育児による仕事の中断で、これだから女性はと言う対応に。

・女性間のパワハラも男性より厳しい。

→男性より優れている事を示す。

女性特有の悩み

・女性指導員が少ない為、女性特有の悩みを相談しにくい。

→他分野の女性とコミュニケーションを作り相談する。

上記の様に沢山の意見が挙がる中、女性の立場を活かしたという意見もあった。

・女性の気持ちを汲み取れる立場として職場で重宝された。

・女性だから大切にしてもらえた事もあった。

まとめ 塩尻会員

皆さんの経験談を聞き、今自分たちが不満に感じている事以前の問題を解決してこられたからこそ今があると感じ感謝したい。

今回のお二人の発表は非常に興味深く、面白かった。他の研究分野の人との交流は視野が広がるので、積極的に輪を広げたい。

閉会挨拶 高橋副支部長

今回いいお話を聞かせて頂き嬉しく思う。また是非応募して頂きたい。同じ研究者同士が交流しあうというのは非常に有意義であった。これから自分の分野でどんどん伸びて行ってほしい。

若手研究者の発表は興味深く、何より情熱に満ち溢れていた。今後の活躍を心から祈りたい。そして、先輩方の貴重な経験談を今後の活動に活かして頂きたい。

